

5 人権と暴力について

1 メディアにおける性・暴力表現

問21 メディアにおける性・暴力表現について、最近、あなたが気になっていることはどのようなことですか。(○は2つまで)

【全体の傾向】

メディアにおける性・暴力表現について気になっていることをたずねたところ、「そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れない配慮が足りない」が25.8%と最も多くなっています。次いで「性犯罪を助長する恐れがある表現」(19.7%)、「女性・男性の性的側面を過度に強調する行き過ぎた表現」(19.3%)などとなっています。

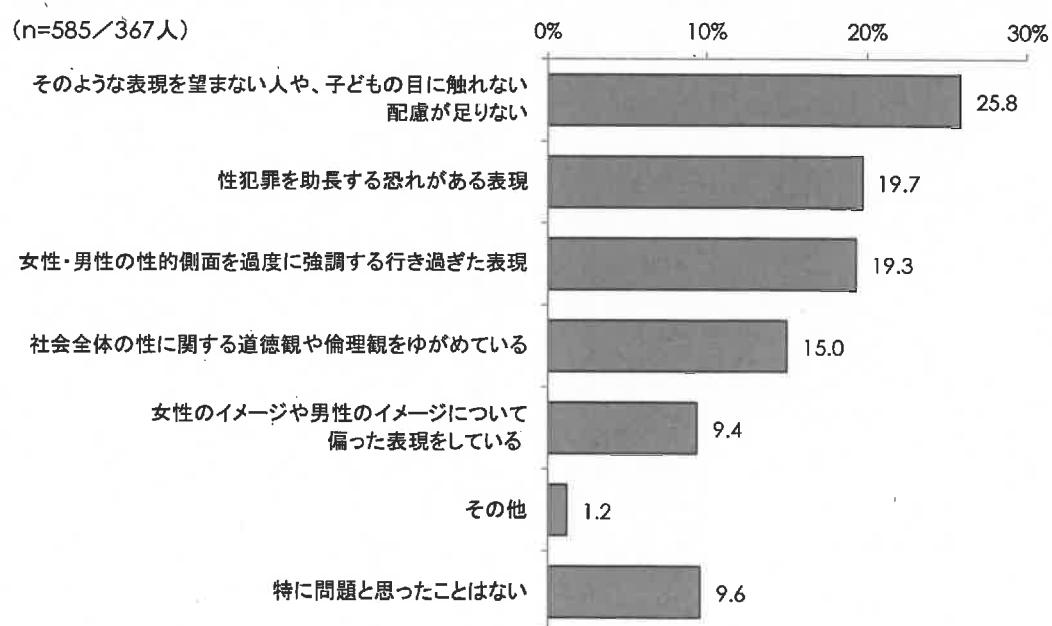
【属性別の傾向 男女別】

男女別にみると、男性では「性犯罪を助長する恐れがある表現」(20.8%)が第2位となっていますが、女性では「女性・男性の性的側面を過度に強調する行き過ぎた表現」(20.0%)が第2位となっています。

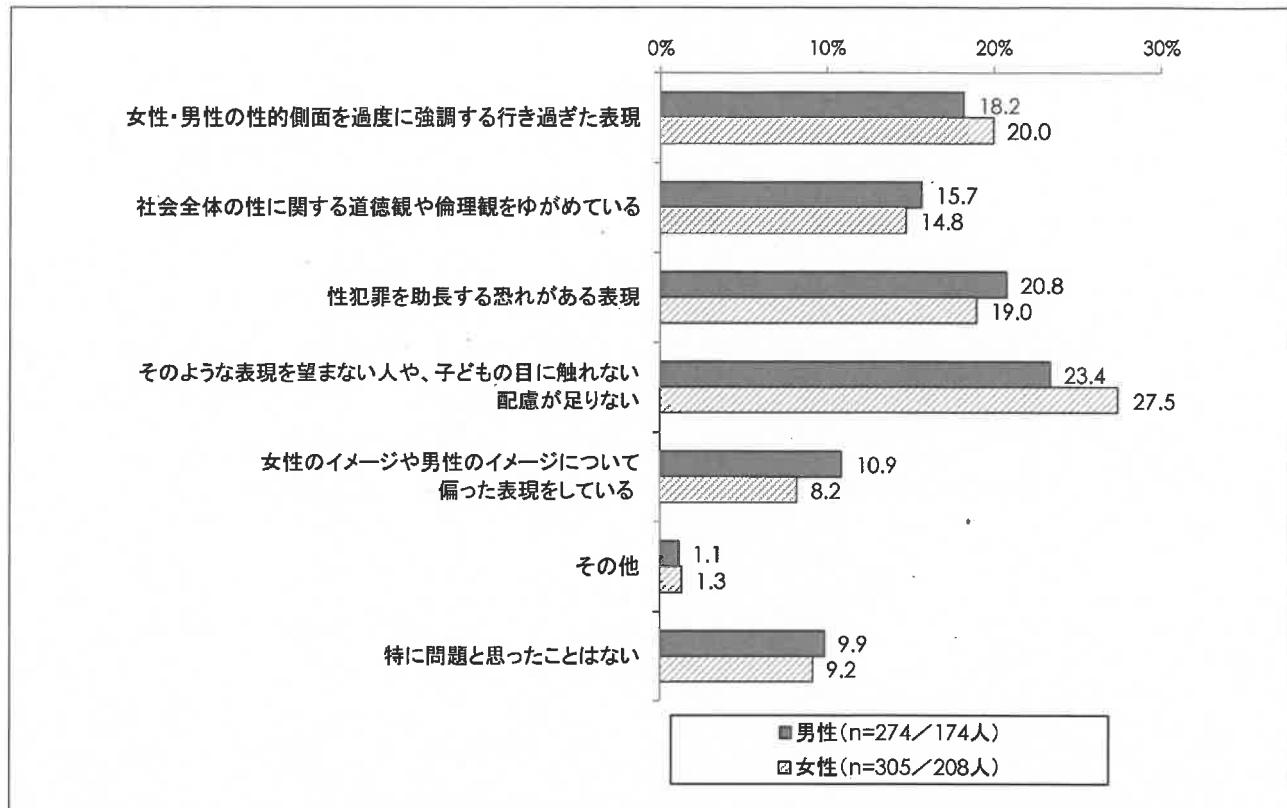
【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、今回調査では「女性・男性の性的側面を過度に強調する行き過ぎた表現」(19.3%)が第3位となっていますが、前回調査では「社会全体の性に関する道徳観や倫理観をゆがめている」(20.7%)が第3位となっています。

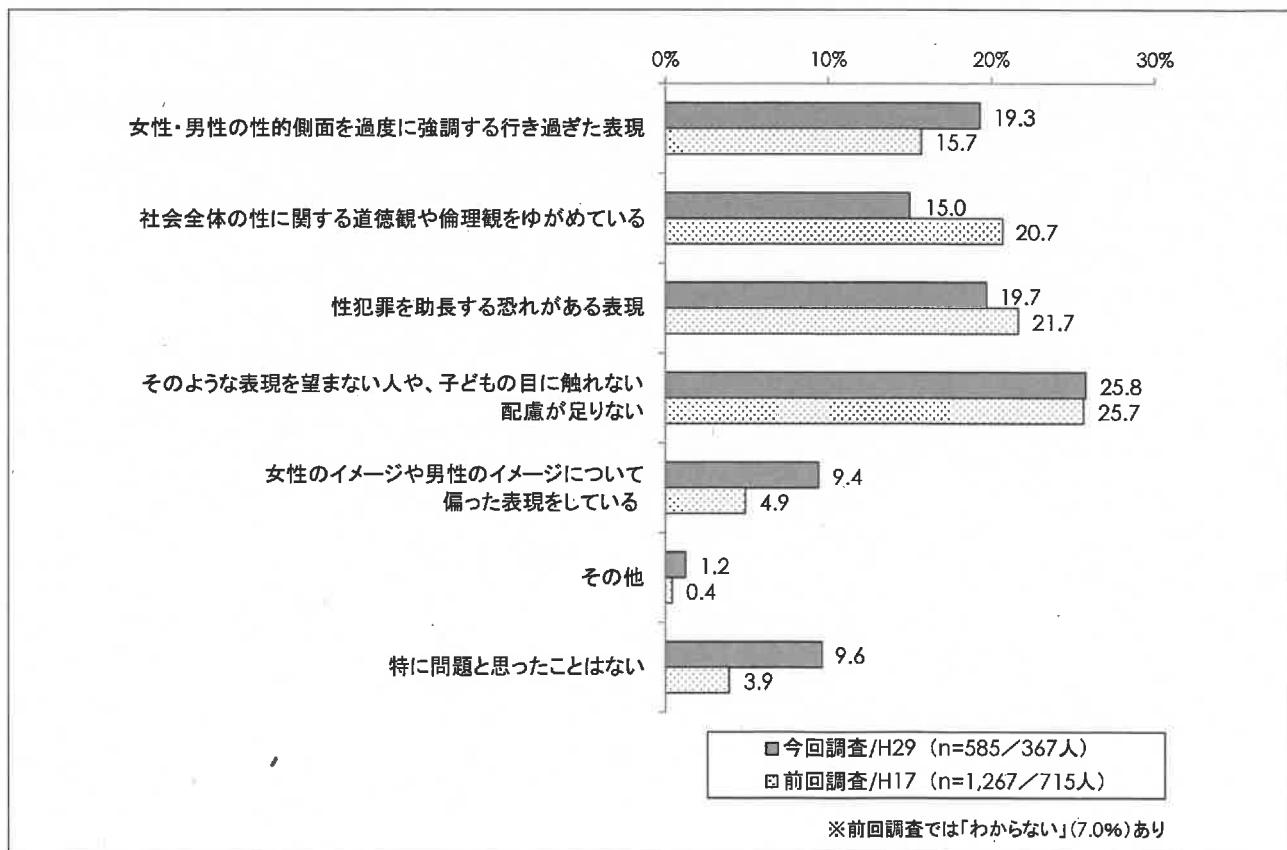
図表 45 メディアにおける性・暴力表現について気になること（全体／複数回答）



図表 46 メディアにおける性・暴力表現について気になること（男女別／複数回答）



図表 47 メディアにおける性・暴力表現について気になること（前回との比較／複数回答）



2 ドメスティック・バイオレンスの被害

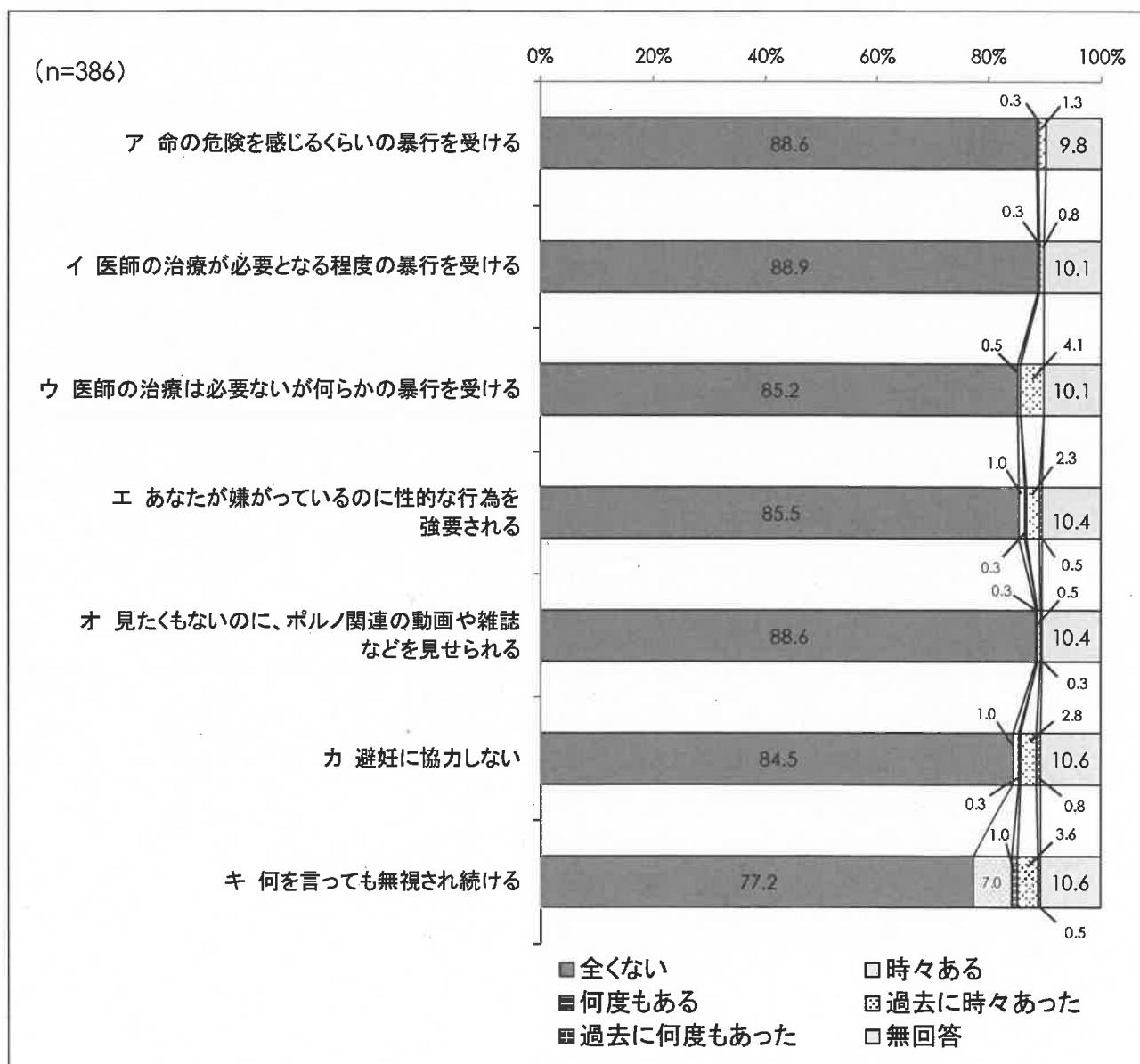
問22 あなたは配偶者やパートナーから、次のようなことをされことがありますか。又は過去にされたことがありましたか。次のア～チのそれぞれの項目について、該当する番号を1つ○で囲んで下さい。

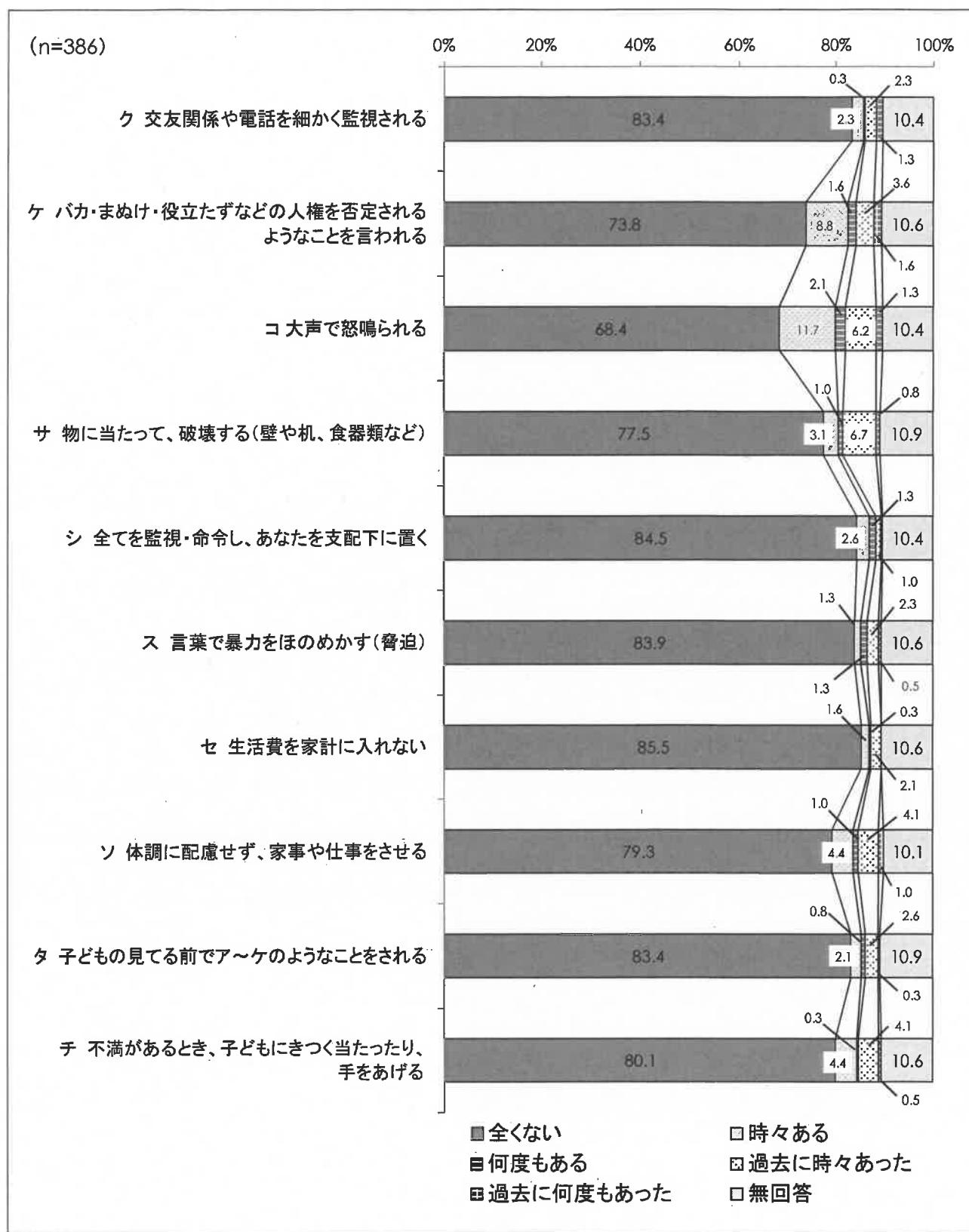
【全体の傾向】

ドメスティック・バイオレンスの頻度についてたずねたところ、全ての項目で「全くない」が約7割～8割と大半を占めています。

また「時々ある」の割合は「大声で怒鳴られる」(11.7%)、「バカ・まぬけ・役立たずなどの人権を否定されるようなことを言われる」(8.8%)、「何を言っても無視され続ける」(7.0%)などでやや高くなっています。

図表 48 ドメスティックバイオレンスの被害（全体）



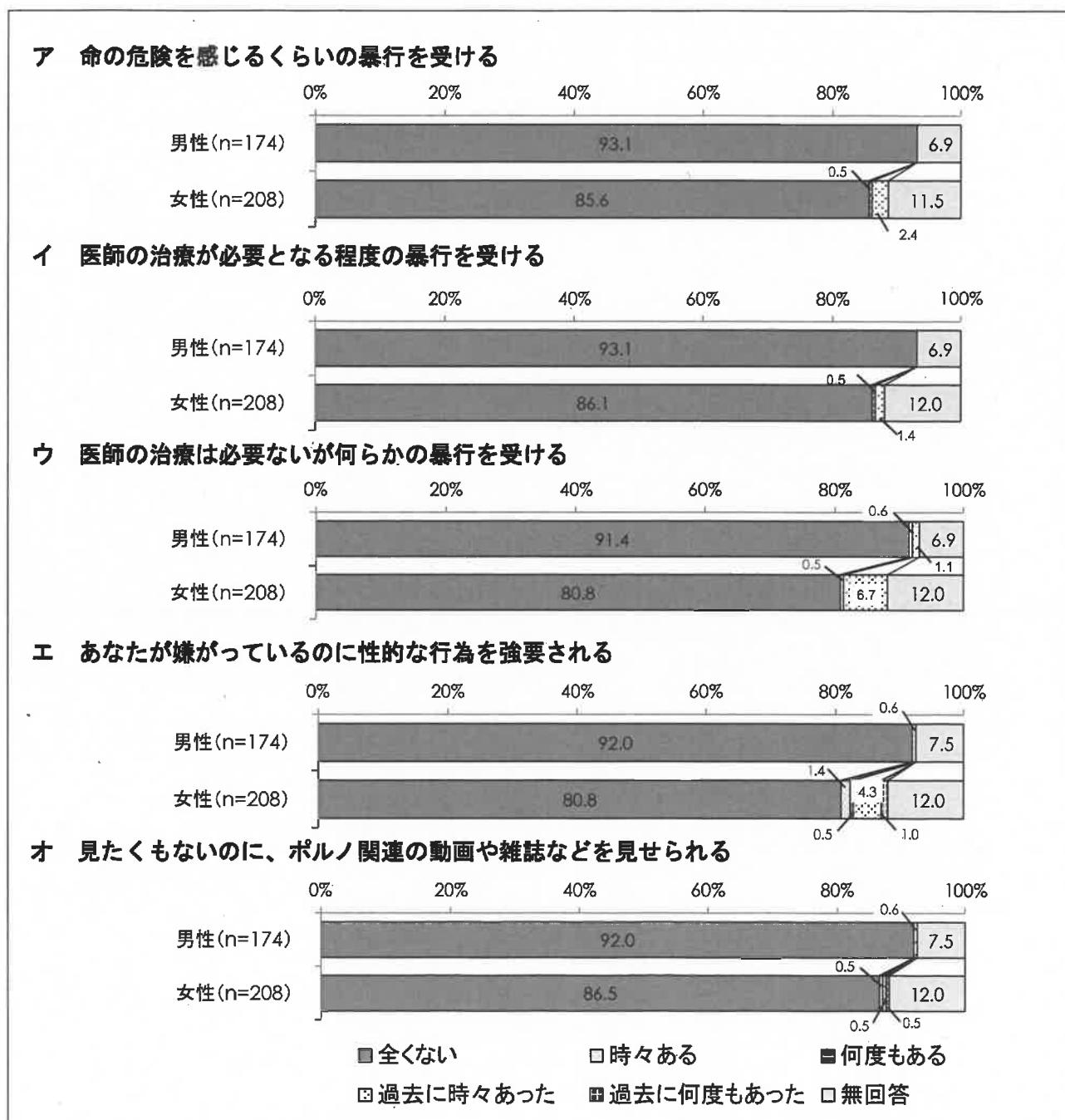


【属性別の傾向 男女別】

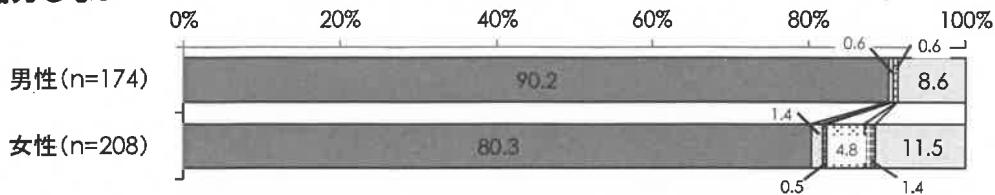
男女別にみると、男性に比べ、女性の方が「全くない」の割合は低くなっています。何らかの被害を受けている割合は、女性の方がやや高くなっています。

一方、「何を言っても無視され続ける」、「バカ・まぬけ・役立たずなどの人権を否定されるようなことを言われる」、「大声で怒鳴られる」についての「時々ある」の割合は、男性の割合が女性の割合を上回っています。

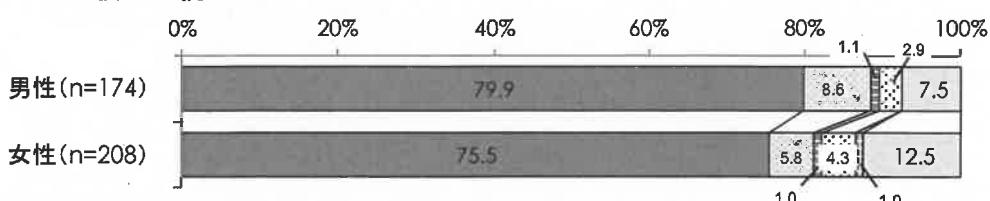
図表 49 ドメスティックバイオレンスの被害（男女別）



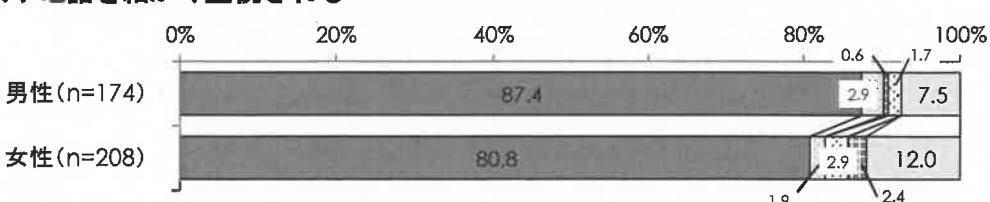
力 避妊に協力しない



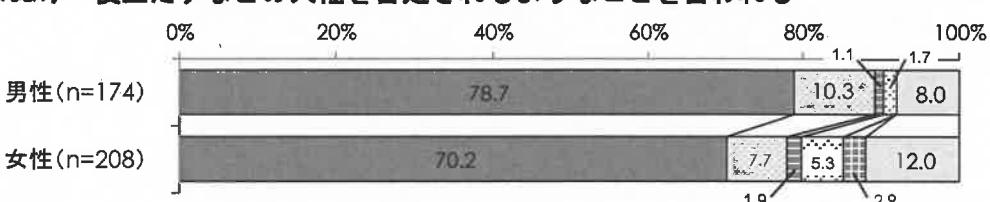
キ 何を言っても無視され続ける



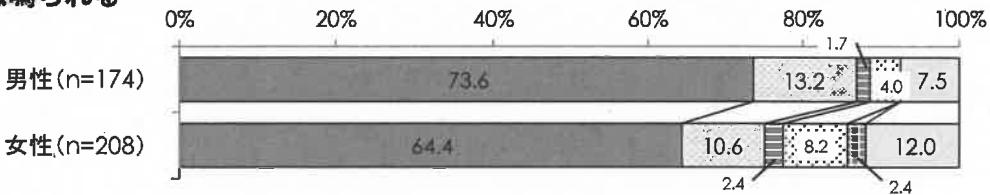
ク 交友関係や電話を細かく監視される



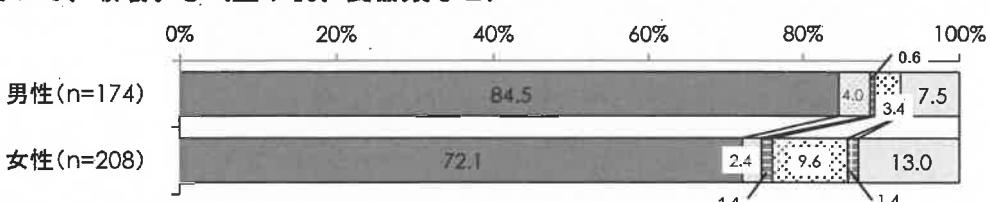
ケ バカ・まぬけ・役立たずなどの人権を否定されるようなことを言われる



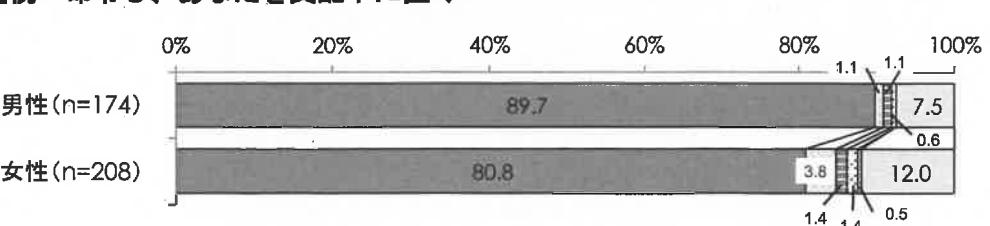
コ 大声で怒鳴られる



サ 物に当たって、破壊する（壁や机、食器類など）



シ 全てを監視・命令し、あなたを支配下に置く



■全くない

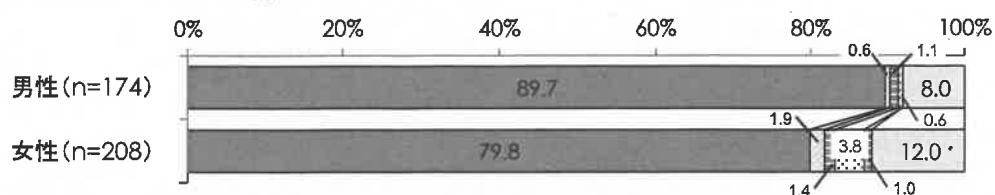
□時々ある

▣何度もある

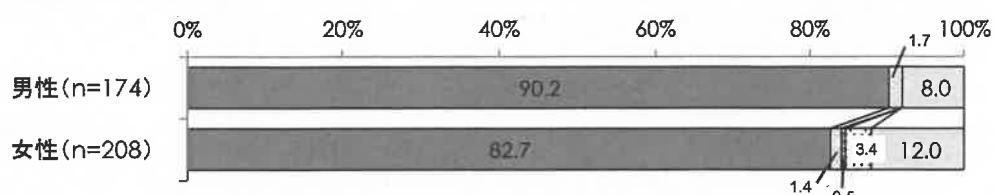
□過去に時々あった

▣過去に何度もあった

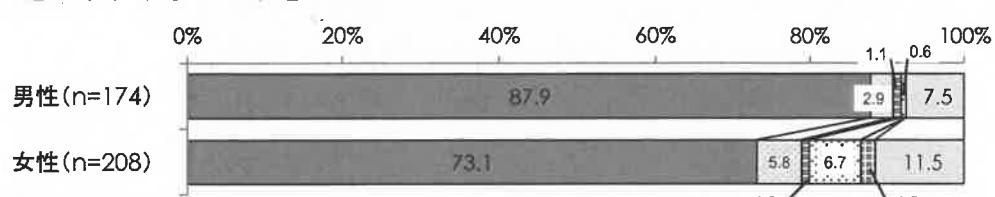
ス 言葉で暴力をほのめかす（脅迫）



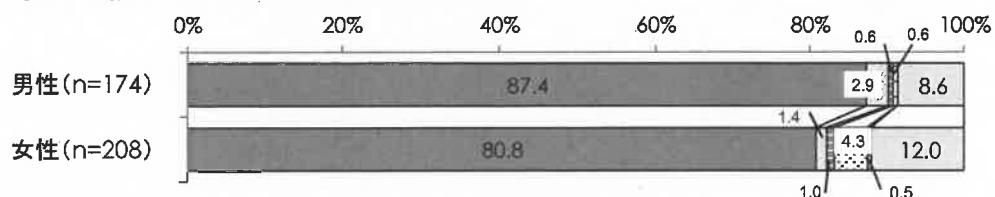
セ 生活費を家計に入れない



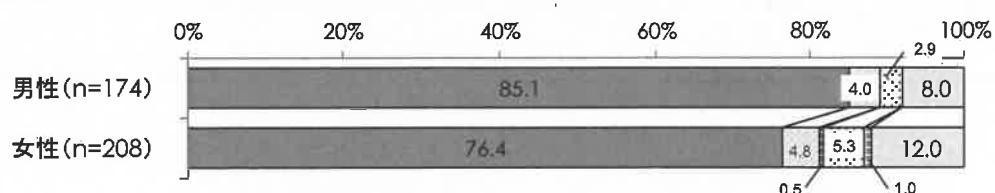
ソ 体調に配慮せず、家事や仕事をさせる



タ 子どもの見てる前でア~ケのようなことをされる



チ 不満があるとき、子どもにきつく当たったり、手をあげる

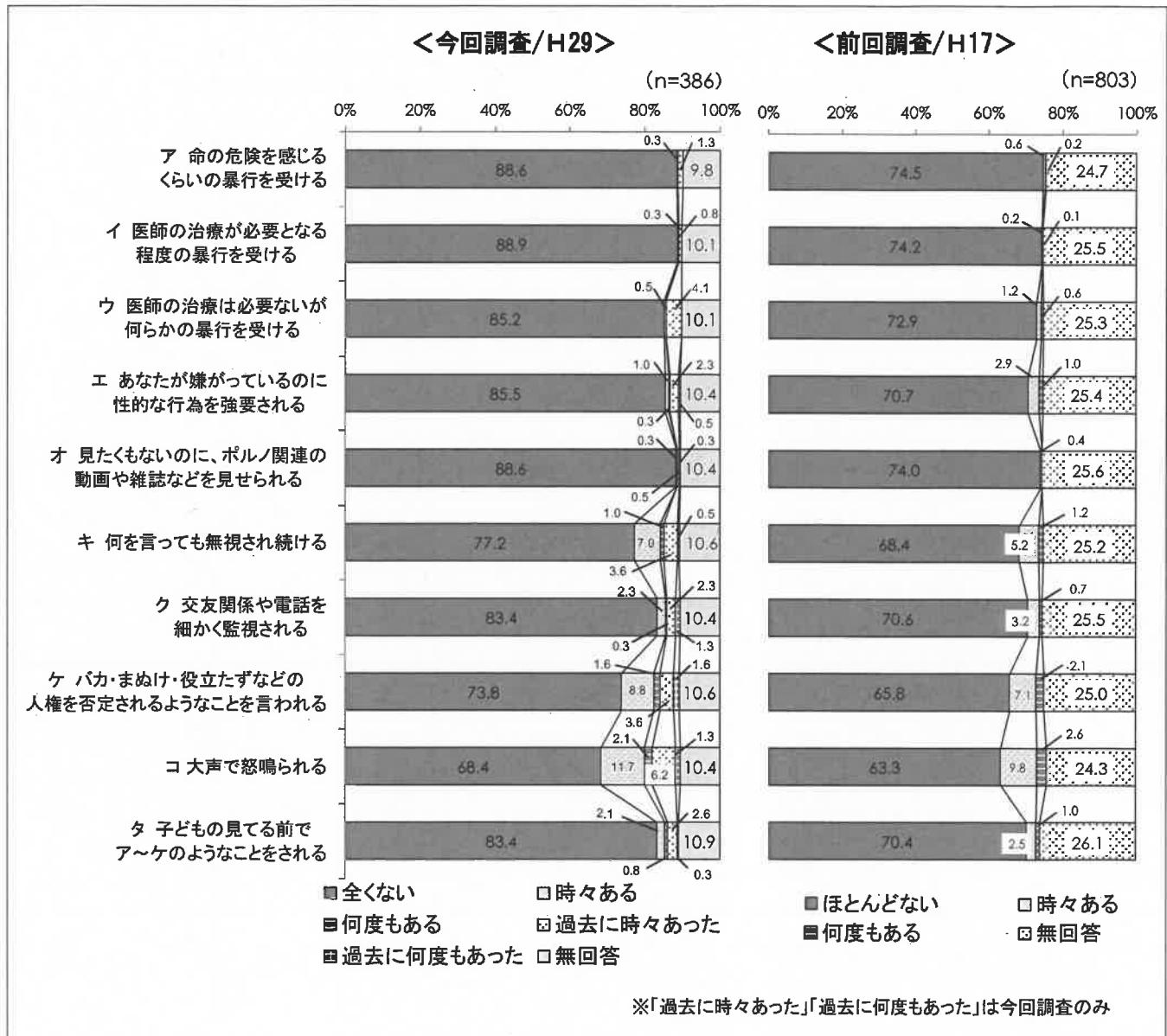


■全くない
■何度もある
■過去に何度もあった
□時々ある
□過去に時々あった
□無回答

【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、今回調査での「全くない」、前回調査での「ほとんどない」の割合が大半を占める傾向に変化はみられません。また、前回調査同様、「バカ・まぬけ・役立たずなどの人権を否定されるようなことを言われる」、「大声で怒鳴られる」については「時々ある」の割合が高く、前回調査よりもやや増加しています。

図表 50 ドメスティックバイオレンスの被害（前回との比較）



3 相談の有無

【問22で「時々ある」「何度もある」「過去に時々あった」「過去に何度もあった」のいずれかにひとつでも○をつけた方のみ】

問23 あなたが配偶者（パートナー）から行為を受けたとき、誰かに話したり相談したりしましたか。（当てはまるものすべてに○）

【全体の傾向】

ドメスティック・バイオレンスの被害を受けた際の相談先についてたずねたところ、「家族（親戚）に相談した」が18.4%、「友人・知人に相談した」が17.0%となっており、身近な人を相談相手とする人が多くなっています。一方、「誰にも相談しなかった」が55.8%と5割を超えています。

【属性別の傾向 男女別】

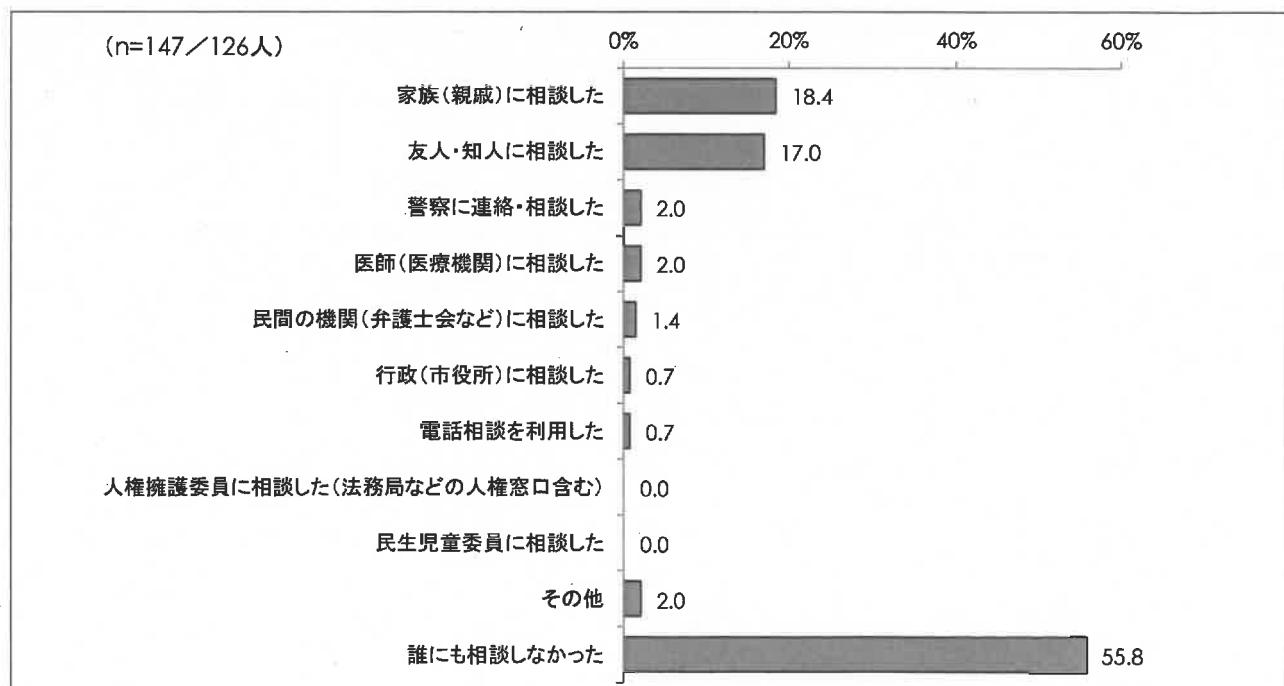
男女別にみると、「家族（親戚）に相談した」の割合は女性（22.7%）が男性（10.2%）を12.5ポイント、また、「友人・知人に相談した」についても女性（23.7%）が男性（4.1%）を19.6ポイント上回っています。一方、「誰にも相談しなかった」の割合は、男性（79.6%）が女性（43.3%）を36.3ポイント大きく上回っています。

女性の主な相談相手は家族や友人、男性は誰にも相談しない人が多い傾向にあります。

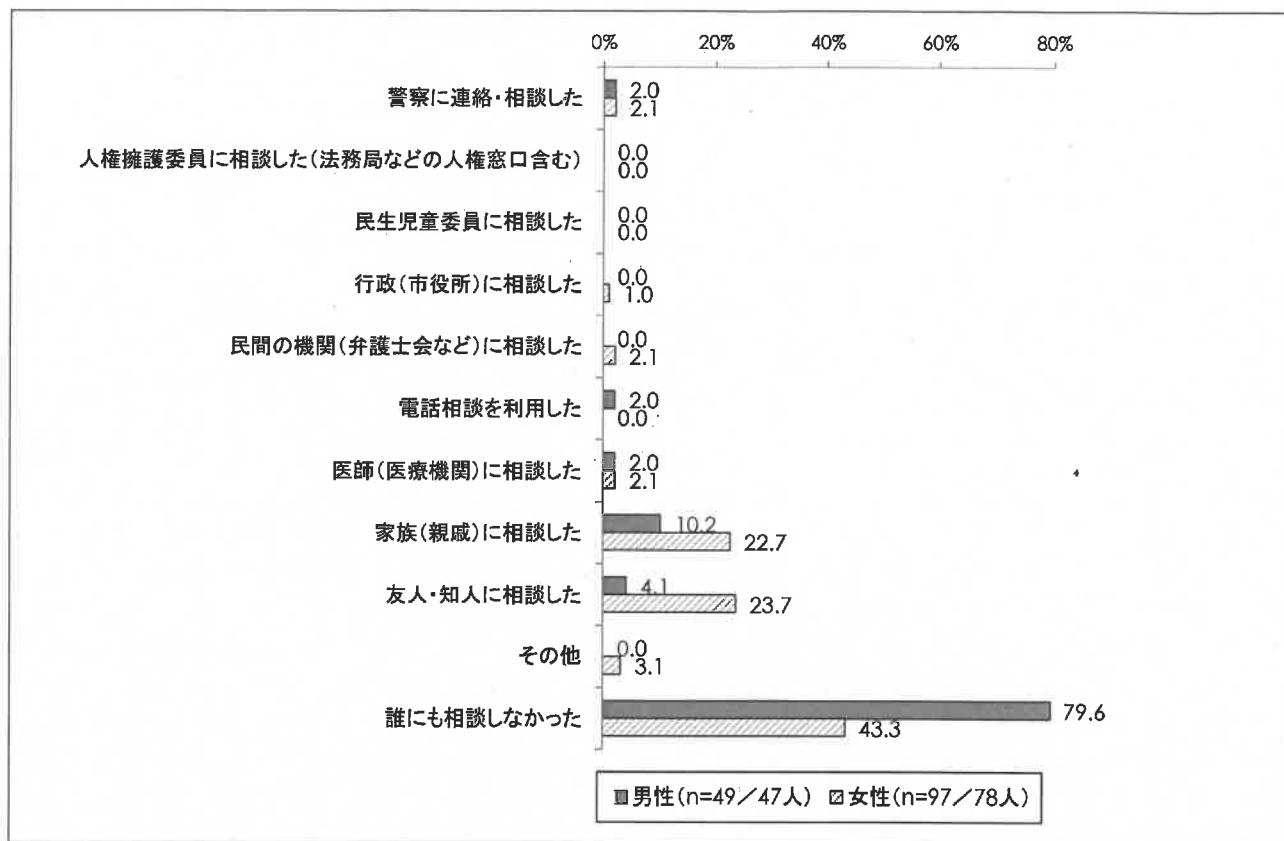
【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「家族（親戚）に相談した」は4.4ポイント増加、「友人・知人に相談した」は11.0ポイント減少しています。また、「誰にも相談しなかった」は18.2ポイント大きく増加しており、被害を受けながらも誰にも相談できない人が増加しています。

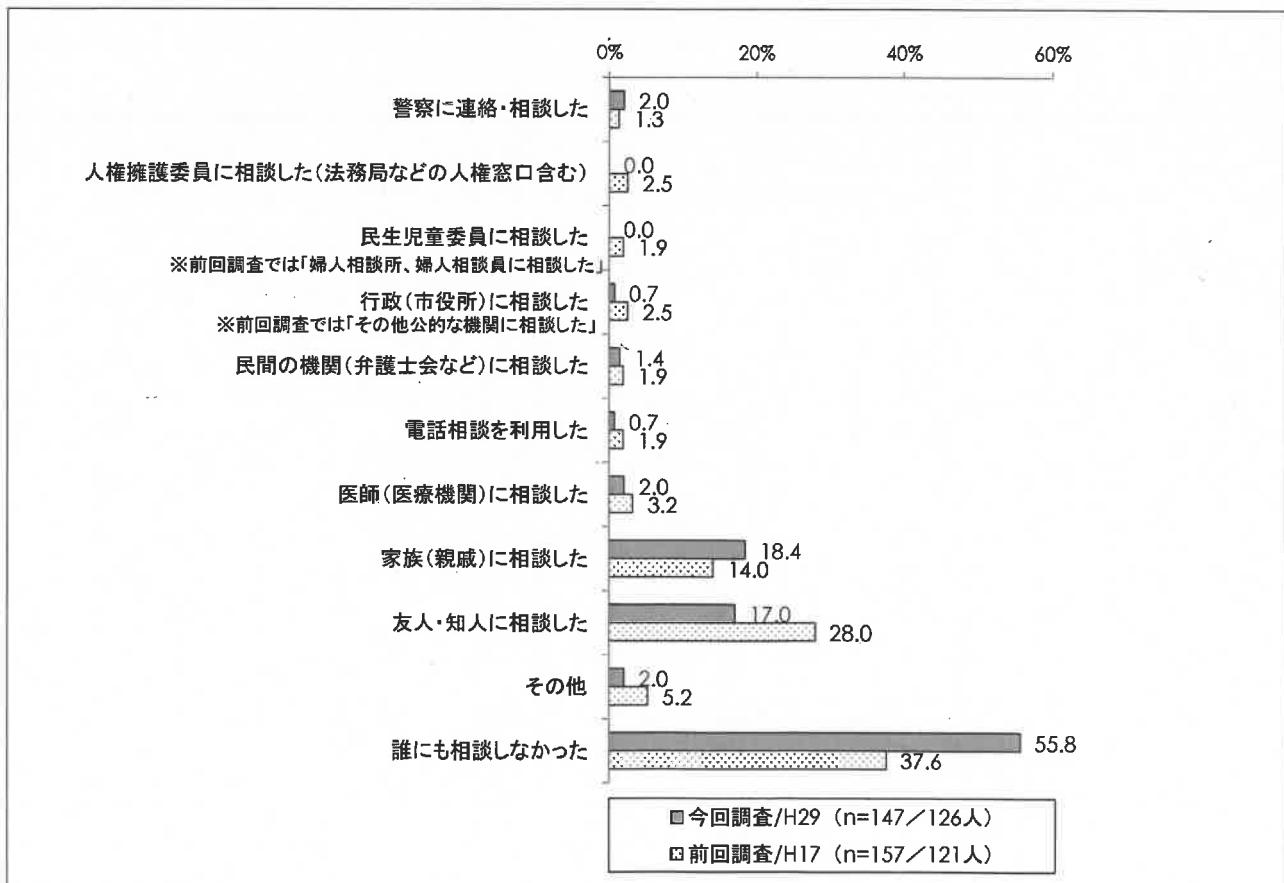
図表 51 相談の有無（全体／複数回答）



図表 52 相談の有無（男女別／複数回答）



図表 53 相談の有無（前回との比較／複数回答）



4 暴力や差別をなくすための方策について

問24 社会全体で、男女差別や男女間の暴力をなくすためには、どうしたらよいと思いますか。
(○は3つまで)

【全体の傾向】

男女間の差別や暴力をなくすための方策についてたずねたところ、「被害者のための相談所や保護施設の整備強化」(19.0%)が最も多く、次いで「犯罪取り締まりを強化する」(13.8%)、「捜査や裁判での担当者に女性を増やし、女性の被害届を出しやすくする」(13.4%)などとなっています。

【属性別の傾向 男女別】

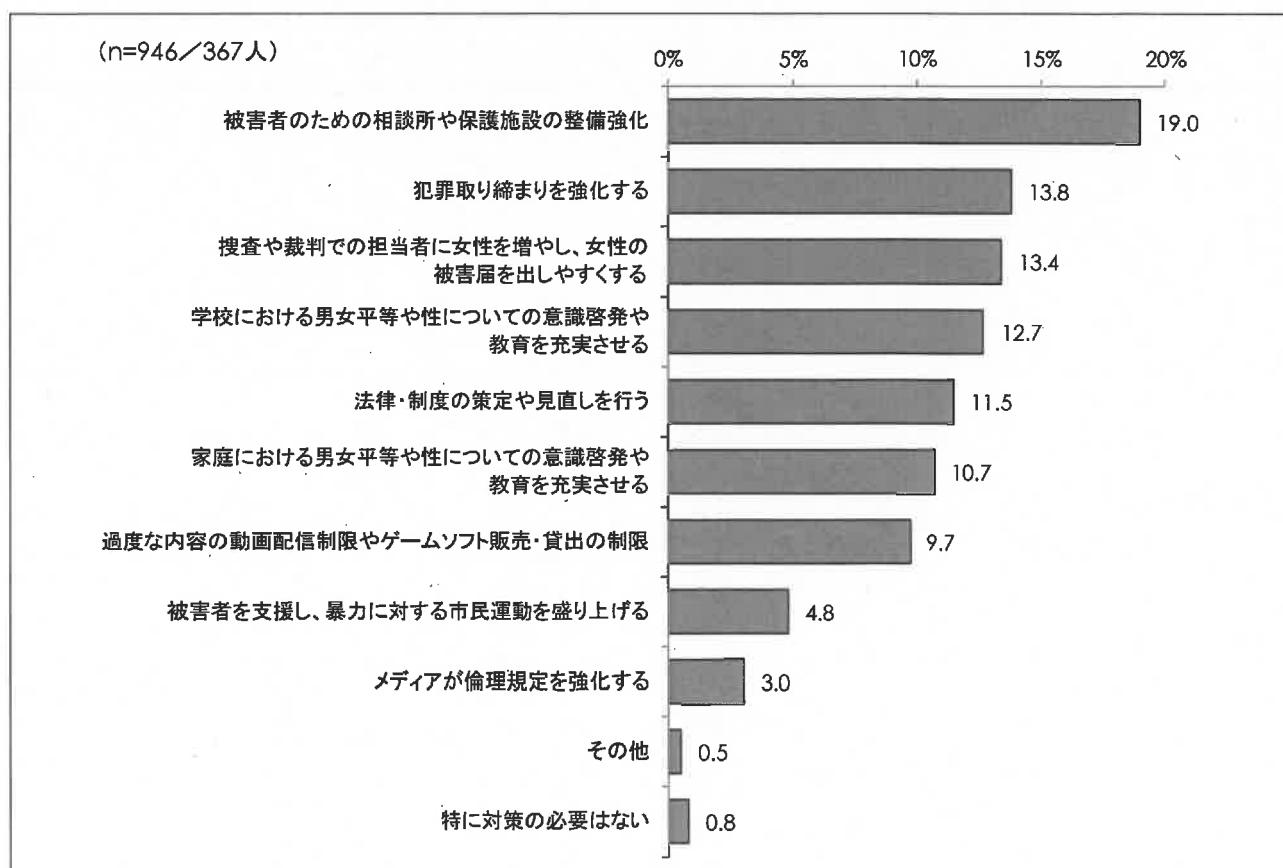
男女別にみると、第2位は、男性では「犯罪取り締まりを強化する」(15.3%)、女性では「捜査や裁判での担当者に女性を増やし、女性の被害届を出しやすくする」(16.5%)となっています。

また、第3位は、男性では「法律・制度の策定や見直しを行う」(13.7%)、女性では「学校における男女平等や性についての意識啓発や教育を充実させる」(13.3%)となっています。

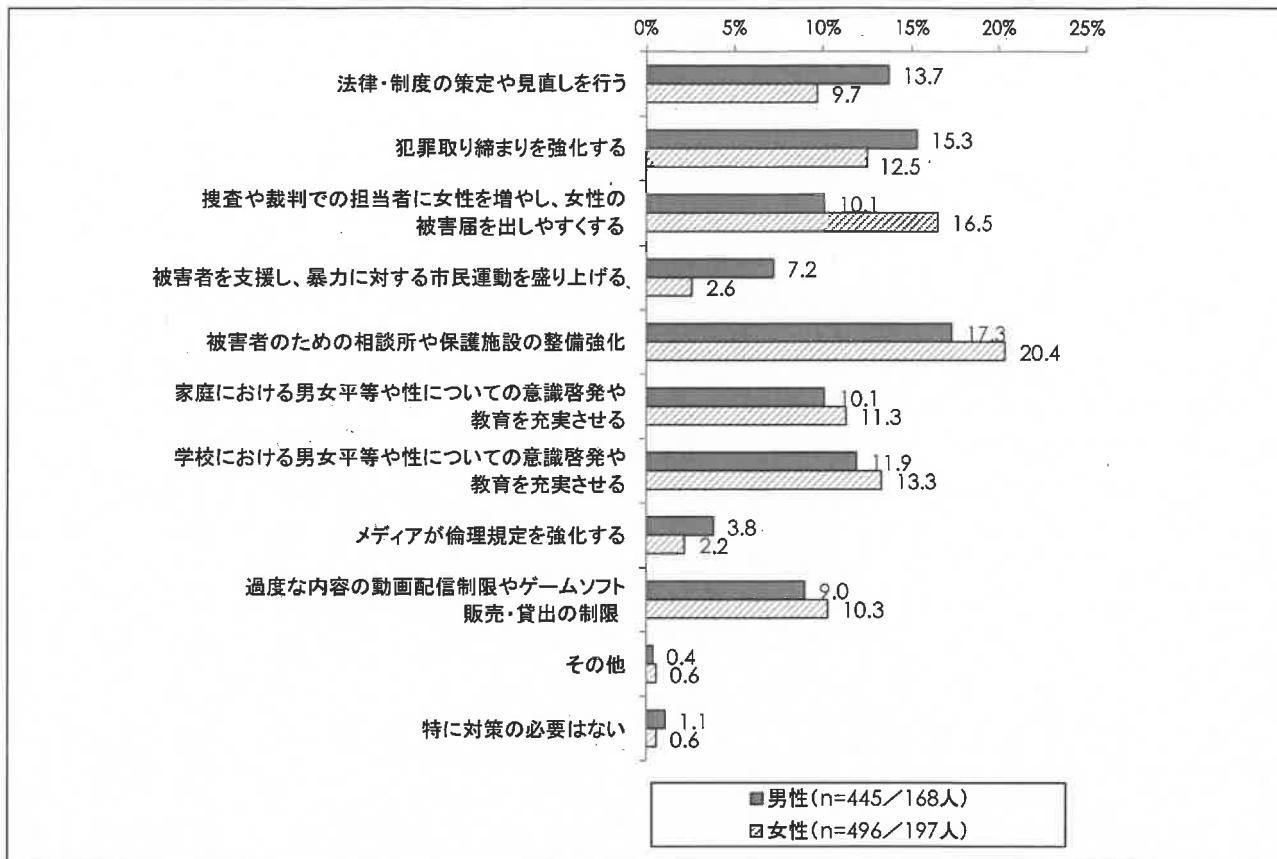
【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、前回調査では第2位の「過度な内容の動画配信制限やゲームソフト販売・貸出の制限」(13.5%)が今回調査では9.7%で第7位となっています。また、家庭や学校における教育を充実させることの割合が前回調査に比べて増加しており、教育の充実が必要とされています。

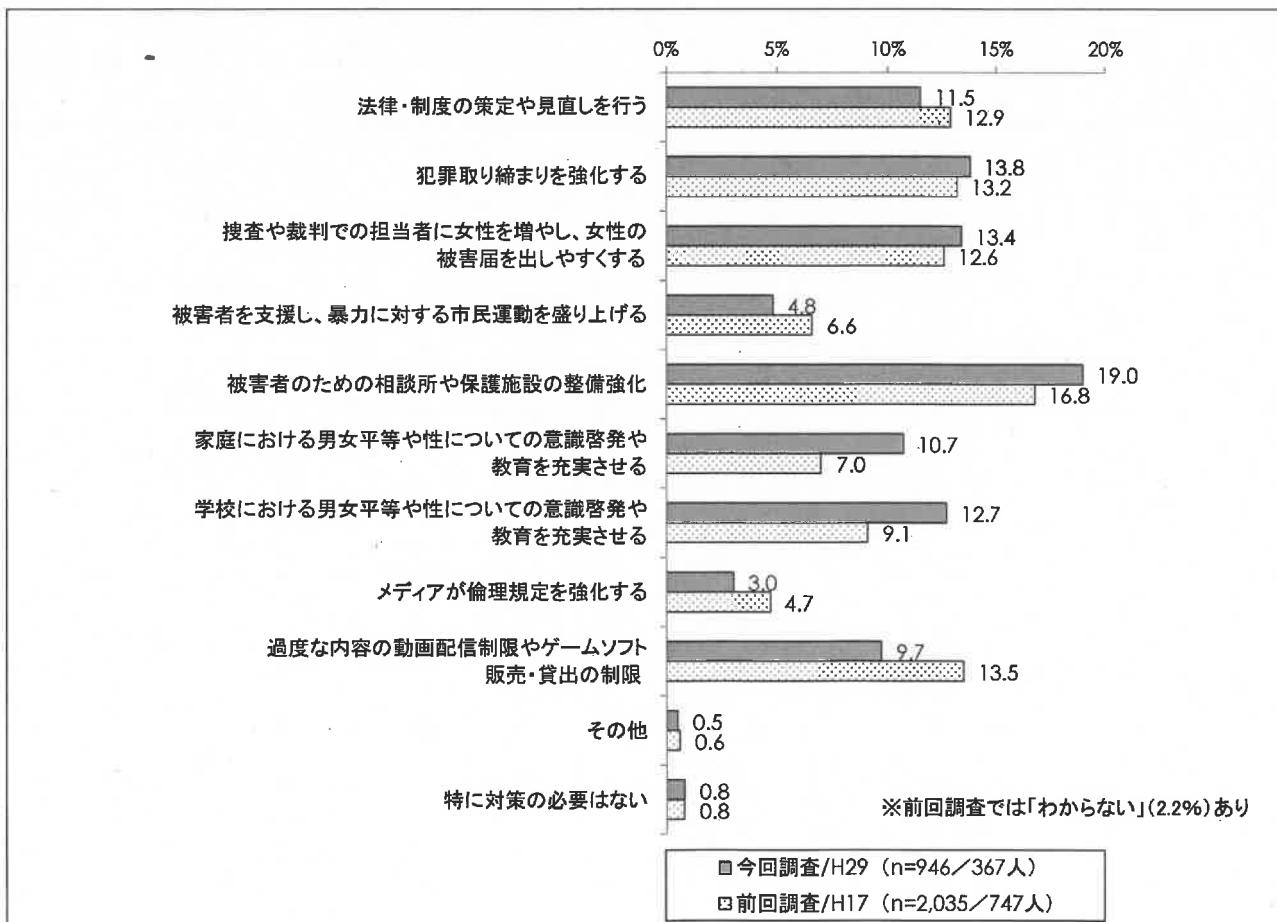
図表 54 暴力や差別をなくすための方策について（全体／複数回答）



図表 55 暴力や差別をなくすための方策について（男女別／複数回答）



図表 56 暴力や差別をなくすための方策について（前回との比較／複数回答）



5 ハラスメントの被害について

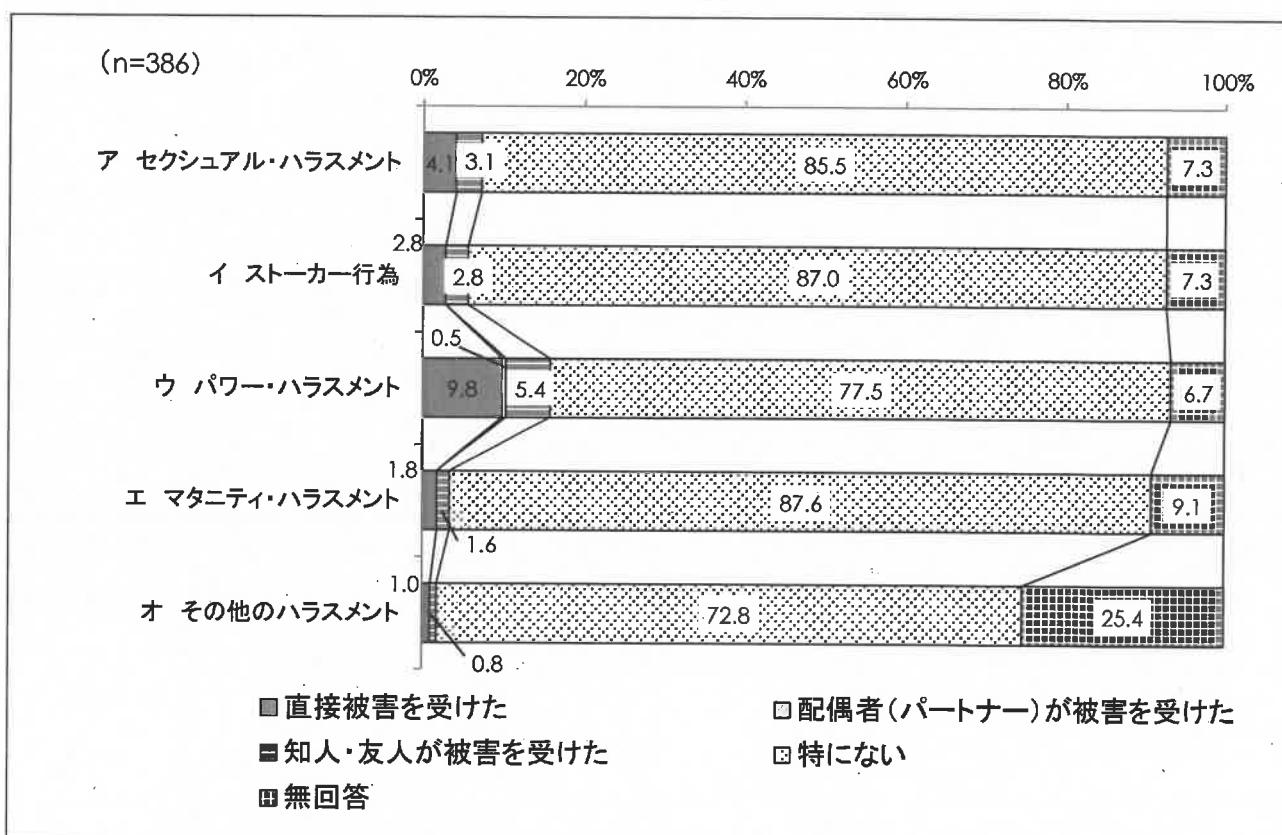
問25 あなたは、下記にあげるハラスメントについて、被害を受けたり、不快な思いをしたりしたことがありますか。次のア～オのそれぞれの項目について、該当する番号を1つ〇で囲んでください。

【全体の傾向】

様々なハラスメントの被害について、「直接被害を受けた」または「知人・友人が被害を受けた」の割合をみると、「パワーハラスメント」、「セクシュアル・ハラスメント」、「ストーカー行為」などでやや高くなっています。

全体的に「特ない」の割合が約7割～8割を占める結果となっています。

図表 57 ハラスメントの被害について（全体）



【属性別の傾向 男女別】

男女別にみると、「セクシュアル・ハラスメント」や「ストーカー行為」については、男性よりも女性が直接、または友人などが被害を受けた割合がやや高くなっています。

パワー・ハラスメントについては、「直接被害を受けた」は女性では14.9%と高く、男性でも3.4%を占めています。また、「知人・友人が被害を受けた」では男女ともに5%程度を占めており、被害を受けた人の割合が他のハラスメントに比べて高くなっています。

図表 58 ハラスメントの被害について（男女別）

